

地域メディアにおける生活情報の交換について

— 井戸端としてのインターネット —

大 倉 恭 輔

生活福祉学科助教授

Keywords : インターネット 地域メディア 生活情報 SNS まち BBS

1. 問題の所在

日本のパソコン利用および市民活動の領域において、1995年は象徴的な年とされている。同年に発売された Microsoft 社の Windows95 が促進要因¹⁾ となり、インターネット利用が身近なものになった。また、阪神・淡路大震災はボランティア活動への参加を身近なものとする契機となった。このことから、1995年は「インターネット元年」「ボランティア元年」と位置づけられている。

同時に、それ以降、両者の親和性も着目されるようになった。阪神・淡路震災において、パソコン通信やインターネットが被災者/地支援のツールとして活用され、その効果が認知されたからである。

その後パソコン通信はその役目を終えたが、インターネット関連の技術と利用状況は変化し続けている。たとえば、ウェブログ/weblog (ブログ) や SNS/Social Networking Service と呼ばれるネット上のコミュニティの隆盛をあげることができる。これらは、情報発信/探索のツールとしてだけでなく、人的なネットワーク構築のためのツールであることを、人々がインターネットに求めていることの証左と見てよい。

そうした動向に呼応するように、各領域における研究も進んできた。しかし、地域メディアという観点からは、インターネットに関する研究は始まったばかりと見てよい。たとえば、地域メディア研究の領域では、地方紙などのプリントメディアや CATV などの放送メディアが中心となっている。また、インターネットにおける地域/ローカルメディアとしての機能に関する研究は、「まちづくり」や「市民活動」の文脈から論じられることが多いようである。

メディア/コミュニケーション研究の歴史や、インターネットの特性 (個をつなぐ・社会に発信するなど) からすれば、そうした傾向になることはたやすく理解できる。だが、情報の発信と探索および人的ネットワークの構築に対する人々の要求にかんがみると、インターネットと地域

の結びつきについて、これまでとは異なった着眼点が求められるはずである。

そうした着眼点のひとつとして、地域住民にとっての「気軽なコミュニケーションツール」としてのインターネットをあげることができよう。災害時ではなく日常時において、(ボランティアのような) 公共的活動ではなく個人的な地域の生活において、人はインターネットをどのように利用しているのだろうか。ローカルなメディアとしてのインターネットに着目することは、メディア/コミュニケーション研究においてだけでなく、地域福祉などの関連諸学・領域においても有用なものとなろう。

上記のような視点から、本稿では地域メディアとしてのインターネットの実態について、事例に即してまとめるとともに若干の考察を試みるものである。

2. 地域情報・地域メディア研究の流れとインターネット

地域とメディアの結びつきに関する研究の流れを俯瞰することは、紙幅の都合で行ない得ない。そこで、ひとまずは下記の2点につき確認をしておくこととする。

第1は、地域の情報化に関するものである。1980年代以降、情報環境の整備・充実によって住民の生活を豊かにし地域の活性化をはかる動きが顕著となった。これらは主として国・自治体の事業であり、最新の通信技術を導入することでその目的を達成しようとするものである。その意味で、地域の商店会の情報化もここに含まれよう。

情報化という用語はソフト・ハード両面のことをさすが、わが国の場合、まずはハード面(情報インフラ)の敷設・充実がイメージされる場合が多い。いわば、情報化を機械化・システム化ととらえるものである。地域の情報化に関する研究においても、個々のプロジェクトに焦点をあて、そこから問題点とその解決法を探ろうとする形式のものを多く見ることができる。

インフラがなければ情報も流れない。しかし、どのようなコンテンツが必要なのか・誰が作っていくのかという面に対する対策は遅れていることが多いようである。そうした動向は、地域の活性化を希求しつつも従来型の公共事業のフレームワークの中でしか事業が策定されないことに起因するものと解される。²⁾ そうした点を受けて、地域の情報化に関する研究は「受け手」の利用実態などについても知見を重ねつつある。

第2は、マスコミ論やジャーナリズム論の文脈における地域メディアに関するものである。この分野では、地域社会でのできごとを伝達しそれに対する解釈の枠組みを与えるものとして、ジャーナリズムとしての地方紙/誌・地方局に着目するものが多かった。

それらは現在でも重要な研究テーマであるが、少しずつ変化していることも事実である。そうした変化は、80年代以降の地域情報化構想がバブル崩壊を経ることによって生じたものと解することができる。(田村 2003) たとえば、ミニFM局やCATVなどに代表される地域における新しいインフラと情報発信の主体への着目がなされるようになってくる。いいかえれば、伝統的なプリントメディアや放送メディアとは異なるメディアが普及してきたこと、それを使って報道の専門家ではない人間が情報発信することへの着目である。

たとえば、「メディア・リテラシー」の獲得をめざし、小中学生の段階から番組制作の体験を与えることを、多くの学校で開始している。これは新しい発信者の育成という側面を有するものである。(松野 2005)

これらをまとめていえば、インフラ依存と新しい情報発信者の誕生が、地域とメディアの関連性を検討する上での出発点となるということである。しかし、その2点はインターネットをめぐる言説において必ず触れられる要素でもある。インターネットの特徴はその地域越境性にあり、異なった地点に散在する個同士を直接的につなぐという点にある。よって、地域のメディアとしてインターネットを考えようとするとき、どのような視座を求めるべきかという論点が立ち現れることになる。

3. 地域および地域メディアの概念とインターネット

インターネットを地域のメディアとして考えようとするにあたって、本項では基本的な概念について整理を行なう。

地域という語に対してどのような意味を与えるかは文脈によって異なる。local と area ではニュアンスが異なり、community という語がさすものはまた異なる。山田は、地域メディア研究における定義のあいまいさについて注意を促し、「英語ならば意味の異なる諸概念が、日本語の『地域』の中には混沌として取り込まれている」ことを指摘している。(山田 1995)

船津は、地域には日常的なレベルでの「社会圏・経済圏・政治圏・文化圏」という枠組みがあり、その「統合機能の具現としてのまとまりとして地域社会がある」としている。さらに、地域情報は「地域問題(争点)情報・地域生活(便益)情報・地域文化情報・地域イベント情報」に大別されるという。(船津 1999)

船津の定義にもとづけば、地域メディアとは、一定の地域社会を対象とする固有の地域情報に関するコミュニケーションのメディアということができる。事実、地域紙の機能は当該地域の政治・経済情報から催事さらには死亡記事を網羅することで成り立ち、受け手の側も全国紙からは得られない情報を享受することで満足を得ている。

だが、それら従来型の地域メディアと比較するとき、新しい地域メディアはその普及度・利用度・満足度が高いわけではない。これは、後発の新しいメディアであるが故のハンディキャップといえる。機器などの操作性・送受信の方法や様式への慣れ・送り手への信頼性・情報内容と自身の生活との関連性といった点において、受け手にとって超えるべき物理的・心理的な障壁が従来型のメディアより高い。

情報行動もまた日常の行動である。そして、新聞やテレビは子どもの頃から慣れ親しんできたメディアである。これに対し、その利用が日常習慣として定着していない後発メディアが利用度・満足度において従来型のメディアと異なる段階にあるのは当然のことといえる。これは、いわゆる「digital divide」の問題と言い換えてもよいが、受け手/利用者の心理的側面を含める点に留意したい。

ところで、後発のメディアという点ではインターネットも、それまでの新しいメディアやシステムと変わるところはない。だが、インターネットの特性から考えてみると、ふたつの点で他の後発メディアと異なる部分があることを指摘できよう。ひとつは、ほとんどの場合、インターネットはパソコンを介して利用するものである点。もうひとつは利用者が情報発信者となれる点である。

パソコン自体が習得にある程度の時間がかかる機械であることはいうまでもない。多くのデータが、中高年において情報機器への関心が薄くなる「逆年功序列」傾向にあることを示している。

(藤村 1998) しかし、ことに1990年代以降、社会のさまざまな場面でパソコンの利用が一般化し始めたことも周知の事実である。さらにいえば、その前段階として「ワープロ」の普及という素地も無視できない要素である。ワープロは事務機器としてだけでなく、個人の文書作成を機械化させる点で大きな役割を果たした。また、中高年者層にも利用者が拡大した点において、パソコン/キーボード操作への障壁を低める役割を果たしたといつてよい。

自宅に見慣れぬしかも用途が限られた機器を設置しなければならなかったキャプテンシステムと比較するとき、これは大きな相違点であるといえる。すなわち、生活の中にパソコンが入り始めていたことが、インターネット利用を開始しやすくさせる契機となったのである。³⁾

また、インターネットが「世界へ向けての情報発信」を可能とさせるものであるという惹句が与えたインパクトも大きいといえる。従来型のメディアは、地域メディアにせよ専門家による情報作成・情報送信であり、多くの利用者は受け手としてしか存在し得なかった。また、市民活動や街づくりの文脈においても、実際的な作業は専門的な知識や技能を必要とすることは同様である。よって、自身がなんらかの情報を発信しようとしても、多くの場合は「投書・投稿」などの送り手側の送信内容の一要素としてしかなし得なかった。

だが、各人の都合と責任によって自己表現を可能とするメディアの誕生は、社会参加に対する新しい可能性を利用者に与えることとなった。自分でサイトを開設することができなくとも、自身の興味などにマッチしたサイトを見つけ、そこに参加することで自己表現をすることができる。しかも、一般的か否かを問わず、自身と興味を一にするサイトはいくらでも見つけることができ、複数のサイトに関与することもそれらを渡り歩くことも可能となる。

そうした状況の中で、地域的话题を発信・交換したいと考える層が出てくるのは当然であろう。ことに、伝統的な地域社会が機能しなくなった今日、生活情報を入手するチャンネルを有さない層は増加し続けている。彼らにとって、必要に応じて生活情報を匿名で入手できるメディアの効用は大きいといえる。

すなわち、空間的に離れている個人を共通の話題で結びつけるという「グローバルなメディア」であるインターネットは、地域の隣人との社会的相互作用を結び得ない/結びたくない者同士を結びつける「ローカルなメディア」として機能しうるのである。確かに、誹謗中傷・風説の流布といった、匿名での情報交換が許容される空間における問題点はいくつでも挙げることができる。しかし、対面のコミュニケーションでは行いにくい地域の政治的な話題からちょっとした疑問などについて、気軽に討議できることのメリットは認められるべきものと考えられる。さらに、プリン

トメディアでは困難な、即時的な情報提供や修正が可能である点も、地域に関する情報交換の場において有効に機能しよう。

4. 地域メディアとしてのインターネットの実勢 -日野市の事例から-

前項までの認識にもとづき、本項では、地域メディアとしてのインターネットがどのような形態および機能を有するものであるかについて、データに即しながら検討を試みる。

a 目的

地域メディアとしてのインターネット研究は始まったばかりである。インターネット自体の急速な普及に呼応して、その形態や機能も発展を続けているが、他の地域メディアと比較するとデータの蓄積や議論はこれからの課題である。

本項では、地域メディアとしてのインターネットの特性につき、日野市の事例をもとに仮説探索的な検討を行なうものである。なお、同市を選定したのは、大倉が2002年に作成した資料との比較が可能であることによる。

b 方法

1) 日野市に関するネット上のリソースの数量的変化の把握

* 「yahoo!」ディレクトリ/カテゴリにおける日野市関連のサイト/ページの実勢と2001年に収集されたデータとを比較。

2) 日野市に関連する地域情報交換サイト/ページの実態把握

* 「mixi」から日野関連のコミュニティを収集。

* 「まちBBS」から日野関連のコミュニティを収集。

3) 得られたデータ中における情報交換の様態の検討

なお、サーチエンジンなどで確認できるサイトやコミュニティの件数は、日ごとに変化する。本論考の趣旨からも、厳密な件数を記すことにはあまり意味を持たないこと・それゆえに文中の件数は概算となることをあらかじめ記しておく。

c 使用したサーチエンジンおよびサイト

ディレクトリ型サーチエンジンである「yahoo!」およびロボット型サーチエンジンである「google」を利用した。

yahoo! のカテゴリ上のサイトは yahoo! 側の審査・サーチの結果、登録されたもののみである。よって、登録申請しなかったサイト・申請の結果登録されなかったサイト・yahoo! 側のサーチにかからなかったサイトは把握されない。そこで、補足データ作成のため、google を利用し「日野」を検索語としてサーチした結果をすべて目視で確認した。

なお、2001年度での調査では「goo」を使用した。これは、googleよりもgooが先行してサービスを開始しており、ヒットする件数も多かったことによる。

「mixi」は2006年秋の時点で利用者が500万人に達するという「SNS/Social Network System」である。SNSはネット上のコミュニティであるが、既参加者からの招待がなければ入会することができず、また匿名での参加も認められない。(ハンドルの使用は可)すなわち、未知の者同士が匿名でコミュニケーションできることを特徴とするインターネットとは、逆の方向でサービスが提供されている点に特徴がある。

参加者は、自身の興味に応じて「コミュニティ」と呼ばれる場を作成したり既存のコミュニティに参加する。SNSでも、入会後は未知の人間とのコミュニケーションを行なうことになる。だが、会員が既参加者のうちの誰かの知り合いであるという点が担保となっている点が、一般的なネット・コミュニティと異なる。また、基本的には趣味的な部分での情報共有を行なわれるが、地域をテーマとしたコミュニティも多く存在する。

「まちBBS」は、地域の情報を交換することを目的として設置された巨大掲示板群サービスの名称である。開設者は「2ちゃんねる」と同一人物だが、実際の管理は地方ごとに選出された管理人が行なっている。

d 日野市の位置と特徴

東京都日野市は、東京都西部にある三多摩地域の一部である。面積は27.53 Km²で、東京都の市町村の中では14番目の大きさである。人口は173,799人(外国人登録2,385人を含む)となっている。甲州街道の宿場町として繁栄していたが、昭和10年頃から工業進出が盛んとなった。昭和30年頃からは宅地化が進み、多摩平団地はいわゆる団地の先駆けでもある。

主要な鉄道機関には市の中央部を走るJR中央線(日野駅・豊田駅)と、南部を走る京王線(高幡不動駅・聖蹟桜ヶ丘・百草駅)がある。典型的な近郊都市であるが、中央線日野駅の場合、1駅東に立川・2駅西に八王子駅というターミナルを控え、駅付近の商圈は広くなくあまり活性化されていない。これに対し、京王線の場合、高幡不動駅・聖蹟桜ヶ丘駅付近ともに一定の賑わいをみせている。

e 結果

1) yahoo! カテゴリにおける日野市関連サイト

2007年2月の時点で、日野に関連するサイトは332件である。(表1)東京都の市町村では、港区が5,866件でもっとも多く、以下、新宿区の4,285件・中央区の4,118件・千代田区の3,820件と続く。ちなみに、日野市の隣となる立川市(人口174,514人・面積24.38 km²)は746件・八王子市(人口537,561人・面積186.31 km²)は1,557件となっている。

すなわち、人口および面積でほぼ同規模の立川市と比較して、その半数しか登録サイトがないことがわかる。次にカテゴリの詳細を見てみると、エリアガイド：4件・グルメ：9件・ビジネスと経済：157件などとなっている。立川市との比較で見ると、エリアガイド：18件・

グルメ：56件・ビジネスと経済：399件となっており、登録件数の少ないことがわかる。

これは、立川駅が中央線・南武線・立川モノレールが乗り入れるターミナル駅となっていることが一因と解される。

yahoo! 登録サイトには、重複するものや更新されなくなったものも含まれる。だが、全体的な構図を把握することは可能であり、上記の数字もそれぞれの地域の実態に即したものと判断されよう。

2) 2001年時点での日野関連サイト/ページとの比較

表題のデータは、2001年の春から夏にかけて収集されたものである。地域メディア研究における基礎資料作成の一環として実施した、日野市に関するサイト/ページの実態把握の結果である。

データは、yahoo! ディレクトリ登録サイトおよびgooでのサーチによって取得された。gooによるサーチは検索語に「日野」を用い、ヒットした数万ページをすべて目視で確認した。さらに、各サイト/ページの内容を勘案しつつ下記の10種・99件に分類された。(表2)

1	公的機関による情報	13件
2	日野の歴史と文化	4件
3	福祉関連	8件
4	民間業者の情報サービス	11件
5	日野の産業など	3件
6	日野の企業・商店	18件
7	日野にある支店・支部・営業所	11件
8	各種団体のデータ	5件
9	個人ページ	19件
10	その他	7件

2001年当時はyahoo! 登録サイトがほとんどなく、データの多くはgoo上のインデックスから採集した。また、実態把握という趣旨からyahoo!のカテゴリとは異なる分類基準となっている。同時に、日野市の居住者・企業などとは直接関係のないサイトもカウントされている。これは、ネット上から日野市に関する情報をどれだけ得られるかという視点からもデータ収集を行なったためである。

現時点でのyahoo! ディレクトリ登録サイトと比較するとき、この6年間のサイト/ページ数の増加に着目せざるを得ない。すでに述べたように、yahoo!には重複登録があり、大倉の2001年調査においては日野とは直接的な関連を有さないサイト/ページもある。そうした事情を踏まえた上で概算を見ると、2001年=99件:2006年=332件と3倍以上になっている。しかも、yahoo!に登録されていないサイト/ページが存在を考慮すると、その増加率はもっと大きなものになると推測される。

3) mixi における日野関連コミュニティ

2006年11月の時点で、日野に関連するコミュニティは68件であった。(表3) 参加者動向を見ると、新撰組 Love♪ というコミュニティが参加者数5,144人でもっとも多く、以下、高幡不動(698人)・日野家(521人)・日野.com(474人)・日野 AREA(365人)・トヨターズ(241人)・ひのっこ。(198人)と続く。⁴⁾

日野は土方歳三・井上源三郎を生んだ土地であり、2004年度のNHK大河ドラマで取りあげられたことも加わり、「新撰組」が文化的な資源となっている。よって、第1位のコミュニティは日野市関連ではあるが、市民中心のコミュニティとはいいいにくい部分がある。

これに対し、2位以降のものは地域住人による地域情報の交換を主目的にしたものである。興味深いことは、市内の各地域のうち高幡不動と豊田が単独のコミュニティを持っていることである。両者は日野市内の鉄道機関において、乗降客数の第1位と第2位の駅である。しかも、豊田駅周辺は高幡不動と較べると飲食店や娯楽施設が多いわけでもない。このことから、地域情報は必ずしも飲食や娯楽に関する情報交換だけでないことの証左となろう。

4) まち BBS における日野関連スレッド

まち BBS は2000年からサービスを開始しており、わが国のインターネットの世界では初期から稼動しているサービスのひとつである。本項で言及している各スレッドも、2001年から2002年の間に開始されている。各スレッドは書き込み数が300に達した時点で新しいスレッドに移動する。⁵⁾

日野に関連するスレッドは、2006年11月の時点で12件であった。(表4) 生活圏の中心となる駅周辺をタイトルとするものとして「日野駅・豊田駅・高幡不動・百草園・南平・平山城址公園」がある。まち BBS は、基本的に鉄道駅単位でスレッドが作成される。また、各地の状況を見ても、乗降客数・周辺の人口にかかわらず、ほぼすべての地域/駅についてスレッドが作成されている。よって、高幡不動など比較すると小規模な百草園などにおいてもスレッドがあることは異例なことではない。

同時に、日野市関連で興味深いのは、「昔の日野を語ろうよ」や「高幡・百草・三沢・程久保の昔を語ろう」といった、懐古的なスレッドが複数存在することである。この種のスレッドは他地域にも見られるが必ずしも多くはない。こうしたスレッドが作成・維持されるのは、当該地域に居住し続けている層および転居後も故郷に対する思い入れを有する層が一定規模以上存在することを示すものといえてよい。

5) 交換される情報内容と様態

本項では、mixi におけるトピックおよびまち BBS のスレッドを閲覧し、そこで交換される情報の内容について概観する。

すでに述べたように、mixi の特徴は参加者が名前を有しており、最低でも1名の既参加者と知り合いである点にある。匿名によるネット・コミュニティでのコミュニケーション様式(中

傷的な発言・対応など)になじめない層にとって、これは大きな魅力となっている。ことにパソコン/インターネット初心者にとっては安心できる場となっている。

だが、そのために、情報の内容や表現が「社会的に望ましい」とされるような方向へ偏る傾向にある。たとえば飲食店の情報において、「おいしい」という発言はなされても「まずい」という評価は行なわないか婉曲な表現でなされる。また、ひとつの書き込みを基点として書き込みが続くことも少ない。評価の良し悪しにかかわらず、会話を続けたり深めたりすることがあまりない。

また、ネット初心者にありがちなことであるが、当該のトピックやコミュニティ内の類似トピックに目を通すことがほとんどなく、同様の質問や情報提供が繰り返されるという傾向も見られる。なんらかの情報を得ようとするに際し、当該トピックをはじめから読むことは、ネット上の基本的なスキルでありマナーとされている。つまり、自身の求めている情報がすでに提示されているかどうかの確認作業は、インターネット以前のパソコン通信の時代から必須とされているのである。また、ネット社会の黎明期ではそうしたマナーを伝授する人間や風土があったものの、今日ではそうした機能が失われている。

視点を変えると、疑問であれ情報提供であれ、mixiの利用者は自身が発言することにのみ注意が向いている層が多いとあってよい。

地域関連に限らず、mixiの多くのコミュニティでは「新規参加者の挨拶」トピックが設けられている。その趣旨から文章内容は当たり障りのないものがほとんどであるが、「地元の友人を作りたい」という挨拶が散見されることは着目に値しよう。地元に関する情報交換だけでなく、実際に飲食を共にしたり遊んだりできる知り合いを求める層の存在がmixiの特徴であるともいえる。これは、匿名での情報交換が主目的であるまちBBSとの相違点である。どれくらいの人間がmixiを通じて対面を果たすのかは定かではない。しかし、実際に飲みに出かけたという報告がしばしば行なわれていることも事実である。

「新規参加者の挨拶」で目立つものとして、他地区からの転入者の挨拶を挙げることができる。「引っ越してきたのでよろしく」というものだけでなく、「今度越すことになったのでよろしく」というパターンもある。これは、転出先がどのような町なのかについてネットを通じて情報収集しようとする層が増加していることを示すものといえよう。

これに対し、まちBBSでは地元商店への評価情報は辛らつなものが多い。むしろ好意的な評価を行なうことは避けられ、それ自体が揶揄の対象となることも少なくない。また商品・サービスの内容だけでなく、店主や店員の立ち居振る舞いまでもが評価の対象となる。これは「2ちゃんねる」に代表される匿名掲示板での作法に近いものがあるといつてよい。

まちBBSにおいても、ひとつの話題を深化・発展させることは多くない。しかし、これは参加者がネット初心者であるためではなく、「2ちゃんねる」的な短いやり取りの応酬が好まれている・推奨されていることによる。ただし、話題によっては短いながらも有用な情報が提供され、そうした情報交換が続く場合もある。

mixiもまちBBSも、交換される情報の領域に差があるわけではないが、交換の様態が異なっ

ているのである。「店および店員の評価」「店舗の開閉店情報」「生活上の相談(病院・美容院など)」といった話題を主としていながら(表6)、しかしそれらの話題を深化させることはあまりない。くだけた言語表現を行なうか否かとネガティブ情報を避けるか否かの違いがあるのみである。その意味で、両者は相補的な関係にあるとあってよいだろう。

5. 考察

地域情報を提供するサイトの運営は、個人によるもの・地元タウン誌によるもの・広告会社が行なうもの(地元企業には限らない)があるが、不動産業者が自サイト内のコンテンツとして提供するケースも多い。今日、企業がサイトを持つ率は多くなっているが、企業規模と比較するとき不動産業者におけるサイト作成率は少なからぬものがあると推測される。

販売する物件が位置する地域についての情報は、顧客の購入決定に影響を与えるものである。それゆえに、不動産業者が生活情報(商店・病院・学校など)を積極的に提供するのとは当然のことである。表2からもわかるように、2001年の時点で民間業者が提供する地域情報の多くは不動産業者によるものである。言い換えれば、ネット上の地域情報は不動産業者によって基礎づけられた部分がある。同時に、不動産業者側のサイト作成が盛んになるのは、顧客の側がそれぞれの地域に関する情報をネットで入手することが増加したことと表裏の関係にあるとみなしてよい。

地域情報は、自治体やそれに準じる公的機関のサイトから得られることも多い。地域住民にとって基本的な生活情報のいくつかは、それらに頼ることしかできない場合もある。またそれゆえに、従来は当該施設に出向くか郵送による手間をかけてしかできなかった作業を、ネット上から入手・返送できるシステム構築を進めてきた。たとえば、図書館の蔵書検索やネット上からの予約システムなどは、地域における文化的な活動をサポートするという見地から大きな進歩であるといえる。

地域のさまざまな面でインターネット利用が進み利便性が高まったのは事実である。しかし、地域住民の社会的な相互作用に、インターネットはいかなる関連を有するのだろうか。先にみてきた事例にもとづくならば、それは「ちょっとした疑問とそれに対する短い回答」を保障する場ということができる。

鈴木はネット・コミュニティの本質を「パブリック・コミュニティ」という用語で表現している。公的に開かれていながら私的なコミュニケーションが行なわれる場という意味である。(鈴木2002) mixi もまち BBS も、インターネット上に設置されたネット・コミュニティである。だが、そこでの目的も実際に交換される情報も地域に関するものであり、鈴木が論じているような一般的なネット・コミュニティとは区別される必要があるだろう。

だが、過去の発言を確認せずに同じ質問が繰り返される状況を見ると、鈴木のそれとは異なった用語法ながら「パブリック・コミュニティ」というタームを用いることができる。すなわち「公的に開かれている場でミニマルな地域情報の交換が行なわれる場」という意味である。

mixi やまち BBS でなされる質問の中には、そこで質問することが不適切あるいは効用がないも

のも少なくない。たとえば、病院の開業時間帯や休診日に関する質問である。それらはネット上で質問するより、当該施設に問い合わせるべきものである。

そうした事例を見ると、インターネット上の地域情報の交換の中には、疑問の解決という目的の他に、「コミュニケーションのためのコミュニケーション」という目的が存在していることがわかる。いうならば「井戸端会議」の現代版であり、地域の井戸端としてインターネットは機能しているのである。

6. まとめと今後の課題

本稿は、地域メディアとしてのインターネットの機能を明らかにすることを目的に、代表的な地域情報交換の場である mixi とまち BBS を用いた仮説探索的な事例研究である。その結果、地域メディアとしてのインターネットには、当該地域に関する知識の深化や議題設定という機能よりも、身近な話題の簡便な交換を主とする場合が多いことを示唆した。また、それについて「井戸端会議の場としてのインターネット」という表現をもって定義した。

ただし、今回の作業はあくまで仮説探索的なものであり、かつ本格的な仮説検証という手順による調査を行なうにはまだ資料が不足していることを認めなければならない。たとえば、詳細な言説分析であり地域特性による情報交換の様態の差異を挙げることができる。なすべき作業は多いが、まずはこれらを今後の課題としたい。

地域メディア研究の分野における、インターネットの性質・機能の明確化とその利用というテーマは今後とも増加すると思われる。そして、「グローバルなメディア」としてのみ着目されがちなインターネットを、「ローカルなメディア」として用いることがもたらすものが何かを知ることは、地域メディア研究のみならずネット社会における人間とその行動の原理の解明に大きな寄与があるものと期待される。

注

- 1) インターネットの商用利用の開始は 1991 年。また、その普及の技術的基盤は WWW 技術および MOSAIC 閲覧ソフトの開発にある。だが、閲覧ソフトおよび PPP 接続ソフトを標準で備えていた Windows 95 が、インターネット利用のハードルを下げたことも事実である。
- 2) これは、1980 年代に生じた地方自治体のホール建設ブームと同様の図式であるといつてよい。
- 3) 本稿では、紙幅の関係から「パソコン通信」については触れないこととする。
- 4) mixi では、ある興味や目的をもった人間が集まる場を「コミュニティ」と呼び、その中で任意の話題について情報交換をする場を「トピック」と呼ぶ。
- 5) まち BBS は掲示板の集合体であるが、全国をいくつかのブロックにわけ、その下に個々の地域の掲示板を設置する形式になっている。このブロックを「板」と呼び個々の掲示板を「スレッド」と呼ぶ。日野関連のスレッドは「東京多摩地区掲示板/多摩板」のもとに設置される。

文献

- 遠藤薫 2004 インターネットと〈世論〉形成 ―間メディア的言説の連鎖と抗争―
東京電機大学出版局
- 橋元良明・吉井博明 2005 ネットワーク社会 叢書現代のメディアとジャーナリズム 2
ミネルバ書房
- 林茂樹(ed) 2006 地域メディアの新展開 ―CATVを中心として―
- 船津衛 1994 地域情報と地域メディア 恒星社厚生閣
― 1999 地域情報と社会心理 北樹出版
- 池田謙一 1997 ネットワーキング・コミュニティ 東京大学出版会
―(ed) 2005 インターネット・コミュニティと日常世界 誠信書房
- japan.internt.com 編集部 2001 近所付き合いは面倒だが、地域情報は欲しい
―地域サイトに求めるものとは? ― <http://japan.internt.com/research/20010718/1.html>
(最終アクセス日:2006年10月26日)
- 川上・川浦・池田・古川 1993 電子ネットワーキングの社会心理
―コンピュータ・コミュニケーションへのパスポート― 誠信書房
- 千川剛史 2003 公共圏とデジタル・ネットワーキング 法律文化社
― 2006 デジタル・ネットワーキングの社会学 晃洋書房
- Joinson,Adam N 2004 三浦・畦地・田中(訳) インターネットにおける行動と心理 北大路書房
- 神戸大学ニュースネット委員会 2000.2.11 阪神大震災を調べる
<http://home.kobe-u.com/top/newsnet/sinsai/book/siryu.htm> 最終アクセス日 2006.10.13
- 児島和人・橋本良明 1996 変わるメディアと社会生活 高度情報化社会における人間のくらし
と学び ミネルヴァ書房
- 藤村正之 1998 中高齢と情報環境の近くて遠い関係 栗村 *et.al* 情報文化と生活世界 社会と
情報ライブラリ 福村出版
- 丸太一 2004 地域情報化の最前線 ―自前主義のすすめ― 岩波書店
- 松野良一 2005 市民メディア論 ―デジタル時代のパラダイムシフト― ナカニシヤ出版
- 宮田加久子 1993 電子メディア社会 ―新しいコミュニケーション環境の社会心理― 誠信書房
― 2005 インターネットの社会心理学 ―社会関係資本の視点から見たインターネットの
機能― 風間書房
- 大石・吉岡・永井・柳澤 1996 情報化と地域社会 社会と情報ライブラリ 福村出版
- 大谷信介 1995 現代都市住人のパーソナル・ネットワーク ミネルヴァ書房
- 鈴木謙介 2002 暴走するインターネット EAST PRESS
- 田村紀雄(ed) 2003 地域メディアを学ぶ人のために 世界思想社
- Wallace,P 2001 川浦康至 貝塚泉(訳) インターネットの心理学 NTT出版
- 山田晴通 1995 「地域のコミュニケーション」という視点 コミュニケーション科学 3
― 2001 地域の情報化から、地域の再構成へ コミュニケーション科学 15
- 山下・川浦・川上・三浦 2005 ウェブログの心理学 NTT出版

表1 yahoo! カテゴリにおける3地区の登録サイト数

カテゴリ	日野市	立川	八王子
エリアガイド	4	18	15
エンターテインメント	16	77	123
教育	34	53	182
芸術と人文	7	8	13
健康	27	59	129
雇用	—	2	2
コンピュータとインターネット	—	—	3
自然科学と技術	8	4	7
趣味とスポーツ	15	38	70
生活と文化	26	33	74
政治と行政	29	37	88
ビジネスと経済	157	399	830
不動産	13	43	73
メディアとニュース	1	2	2
旅行、交通	7	16	19

表2 2001年における日野関連サイト/ページの実勢

* () 内の文章は大倉による補足。

* デッドリンクになっているものが多いため URL は記さない。

■ 公的機関による情報

日野市

わが市を語る (全国市長会の機関誌「市政」のオンライン版における市長による紹介記事)

自治体案内 (郵政省による日野市役所・支所の所在情報)

病院案内 (郵政省による日野の病院の所在情報)

郵便局のご案内 (郵政省)

ATM 案内 (郵政省)

東京都衛生局 夜間心の相談室 (南多摩保健所が担当する旨の記述)

東京都住宅供給公社<組織改正のご案内> (営業所などの改組情報)

東京都日野市 (国立医薬品食品衛生研究所による 0-157 の発生状況データ)

亡くなった方 その5 (警視庁身元不明相談室による写真掲載)

NEWS (自治省ページ内の「地域振興券配布日」データ)

平成 11 年度 定期検査実施時期 (東京都計量検定所によるデータ)

(0425)地域の市内局番3桁化について (関東電気通信監理局からの報道資料)

<p>■ 日野の歴史と文化</p> <p>豊田囃子保存会 - 日野市の豊田囃子保存会の活動紹介</p> <p>四谷睦囃子連</p> <p>ROICA 神明上遺跡第40次調査 (在野の考古学研究者のページ)</p> <p>国立科学博物館人類研究部 (坂西横穴墓群出土人骨の写真)</p>
<p>■ 福祉関連</p> <p>日野市社会福祉協議会かわせみ福祉ネット</p> <p>LIVE-NET (日野市社会福祉協議会日野市ボランティアセンターが運営するパソコン通信によるフォーラム)</p> <p>日野市社会福祉協議会 日野市ボランティアセンター (社団法人京都ボランティア協会のページの中のデータ部分)</p> <p>Japanese Volunteers (民間の情報サービス会社のページにある「日本のボランティア団体」のデータ)</p> <p>展示場情報 (財団法人東京都地域福祉財団東京都福祉機器総合センターのページ)</p> <p>販売店情報 (財団法人東京都地域福祉財団東京都福祉機器総合センターの別ページ)</p> <p>健康づくり都民会議会員 (東京都健康推進財団東京都健康づくり推進センターの会員ページ)</p>
<p>■ 民間業者の情報サービス</p> <p>TOKYO TAMACITY (多摩地域中心のプロバイダのページにあるデータ)</p> <p>清水産業開発(株)がお勧めするリンク集 (日野の不動産業者によるデータ集)</p> <p>日野市の広報から、日野市の生活情報 (八王子・多摩・日野で営業している不動産屋のネットワークが提供する住宅情報のページ)</p> <p>保育所-日野市- (民間の情報サービス業者のページ内のデータ)</p> <p>日野市条例一覧 (民間の建築情報のネットワークの会社内のデータ)</p> <p>東京都日野市 (民間の医療情報サービスによる全国病院案内)</p> <p>メディカルネット-東京都日野市- (民間の医療機関紹介業者のページ内のデータ)</p> <p>学校-日野市- (住宅情報・広告会社のページにある地域データ。保育園・幼稚園・小学校・中学校の所在地情報)</p> <p>医療機関・保健所-日野市- (住宅情報・広告会社のページにある地域データ。医療機関の所在地情報。上記と同じ企業サイト内。)</p> <p>多摩地区の自動車教習所 (立川地域を中心とする不動産会社が運営するページ内のデータ)</p> <p>KEIO Group (京王電鉄のページにある沿線情報のページ)</p> <p>グルメ情報一覧 (システム会社が運営するグルメ情報ページ内のデータ)</p>
<p>■ 日野の産業など</p> <p>welcom 日野市商工会 (英文表記はママ。写真による紹介程度で産業構造などのデータはない。リンク集も工事中の段階。)</p> <p>(社)日野青年会議所</p> <p>豊田商店会 - 商店会の活動の紹介。イベント情報、各商店の紹介</p>

■ 日野の企業・商店

Internet Venture Club とは？（日野市初のインターネットサービスプロバイダ）

Internet Venture Club とは？（上記プロバイダの利用者サイト内の紹介ページ）

日野精機株式会社

株式会社環境管理センター

株式会社ファインシステム（半導体計測システムの開発会社）

有限会社矢木工作所（家具企画製造販売業者のサイト）

株式会社 国際企画制作所（コンサルタント企業系列の模型制作会社）

花の清水園

大貫商店（ビール輸入・販売）

蛸びな（寿司店）

The もんじゃのホームページ

カフェ デ フィーユ

ビストロ・ド・ミニヨン

クラブN2（自動車関連）

HAIR SPOT DEAR（美容院）

MOVE チューニングファクトリー（自動車関連）

有限会社ウエマツ（オートバイ販売）

史歯科医院

佐々木動物病院

■ 日野にある支店・支部・営業所

全葬連会員単組名簿（東京多摩）

株式会社エスアールエル（民間の特殊臨床検査センターの研究所所在地情報）

STORK SS Map（ガソリンスタンド）

白洋舎店舗案内（クリーニング業者）

LAKE:支店案内（金融業）

MOS SHOPS（ファーストフード）

株式会社 大崎（物流サービス会社の営業所所在地情報）

共栄産業（物流業者ネットワークのページの中のデータ）

株式会社エッチ・ケー・エス（富士宮市の自動車部品・エンジン開発会社の営業所案内）

株式会社コニカサービス

giant（自転車製造業者のショッパールーム）

■ 各種団体のデータ

三保連・日野市（三多摩地区の私立保育園のページにあるデータ）

社団法人東京都八南歯科医師会

東京の木で家を作る会（建築・設計業者の団体内の会員一覧ページ）

東京都市営霊園 (日本霊園サービス協会のページの中の所在一覧ページ)
日野市ルネサンスシティ研究会 - 多摩都市モノレールの新駅5カ所周辺のまちづくりを考える

■ 個人ページ

新郵便番号検索結果 東京都・日野市 /
日野市民のページ (情報交換サイト・リンク集)
日野出身の有名人
東京都日野市消防団第2分団第4部 (個人のページ) - 団員紹介等
私の住む日野市 (日野の位置・歴史・観光スポット・地名・新撰組・公共施設紹介など)
新撰組史跡コレクション (「多摩編」というページに土方歳三の情報を掲載)
zu Hause - 静座のホームページ (コンテンツのひとつに日野の散策案内)
つなぐHomepage
アコーディオンそして私のまち日野
IZUMI's HOMMEPAGE - 京王線高幡不動尊や百草園の情報
はせべんの無添加倶楽部 - 日野市、高幡不動のタウン情報
ようこそめいのページへ (保育園・幼稚園・児童館情報など)
育児情報 (日野周辺)
釣りに行こう! (日野橋付近での釣果報告ページあり)
花鳥風月のフォトギャラリーへようこそ (日野の「カタクリ」の写真あり)
百草園の梅
maturisyasin (日野の八坂神社の祭礼写真あり)
記憶の風景 (高幡不動の写真あり)
セクシー吹奏楽団 - 日野市で練習をしている吹奏楽団

■ その他

多摩動物公園 (情報サービス会社のページ内のデータ)
実践女子学園
実践女子短期大学生活福祉学科 (学科による独自サイト)
東京都立科学技術大学
明星大学
ようこそ至誠第二保育園へ
めぐみ教会

表3 mixiにおける日野関連コミュニティー一覧

* () 内の文章は大倉による補足。

● 地域全般	
新撰組 Love♪	5144 人
高幡不動	698 人
日野家	521 人 (「日野家」は日野 CATV のサイトおよび洞サービス加入者を意味する。ただし、非契約者の参加も認めている)
日野.com	474 人
日野 AREA	365 人 (参加者を 10 代～20 代限定に限定)
トヨターズ	241 人
ひのっこ。	198 人
ひの新選組まつり	64 人
多摩平団地民	36 人
ハートフルタウン百草園	6 人 (新規開発住宅地住人)
日野市 1977 78 年生まれの集い	3 人
FIRE BOYS	3 人 (遊び仲間)
● 学校・同窓	
実践女子大学	229 人
実践女子大学・国文学科	25 人
実短	12 人 (卒業生中心)
明星大学☆写真部	14 人
明星大学ラグビー部	6 人
明星大学&日野周辺!MHP 狩人部	3 人
豊っ子	10 人 (創価女子短期大学「豊田寮」関係者)
日野市立日野第八小学校	104 人
日野市立日野第二小学校	103 人
南平小学校	91 人
日野市立日野第五小学校	74 人
日野市立滝合小学校	70 人
平山台小学校	68 人
東光寺小学校	46 人
平山小学校	32 人
夢が丘小学校	7 人
多摩平幼稚園	52 人
日野市立とよだ保育園	6 人

百草台保育園	3人
東京トフィファッション専門学校	24人
児島奨学会 同学舎	5人 (学生寮)
● 育児	
日野子育て集団	66人
日野、妊婦	18人
子育て応援隊	9人 (大学生のボランティアサークル)
あかいやね	7人 (0歳～5歳児とその保護者・地域住人)
● 社会教育・運動など	
日野市朝鮮人学校補助金減額賛成	77人
ひの社会教育センター	29人
日野市立児童館	26人
Angel's Smile	3人 (ダウン症児・視聴覚障害児の親の情報交換)
カトリック高幡教会	13人
● 店舗関連	
ぶっかけうどん さくら	102人
RAZZLE DAZZLE	71人 (家具店)
ゲーム館 アイビー	58人
GreenPalace と仲間達	36人 (ダーツ・ビリヤード専門店)
日野 牛拓で集う	28人 (焼肉店)
インド食堂 アンジュナ	17人
小料理屋 心花で楽しく飲もう	17人
ちゅらさい	16人 (沖縄料理店)
cafe bar H.O. Bleu	14人
Cafe Albert	14人
Soul K	13人 (ライブハウス)
茶実	12人 (弁当屋)
● スポーツ	
三沢マッスル	8人 (野球チーム)
Groovin' Life	6人 (ソフトボールサークル)
なんでもありのソフトボール部	6人
日野市個人参加フットサル	4人
FC 大和 サッカーコミュ	3人
日野にJを目指すチームを!	4人 (サッカー)

● 参加あるいは公開を限定しているコミュニティ	
七輪会	17人 (飲み仲間)
TEAM RAZZLE DAZZLE クローズド	13人 (同名店舗関係者)
凜家の住人	10人 (アパート住人)
ヌ〜ボールⅢ	6人 (中学校の硬式テニス部関係者)
幸楽園スタッフ集まれ!!	4人 (焼肉店スタッフ)
日野市 TCG 同好会代表兄者 (仮)	3人 (TCG サークル)
今日もみんなで三人会。	3人
百草園テニス	3人 (30歳代から50歳代の年齢層・小さな子供連れ等の家族を対象)
うたごえ in ひの	1人 (合唱サークル)

表4 まちBBSにおける日野関連スレッド

スレッド名は変更されたりサブタイトルや記号が付加される。よって視認性を高めるために地名・駅名だけをリストする。

タイトルに続く数字はバージョンをあらわす。まちBBSでは書き込みが300になった時点で新しいスレッドとなる。よって、番号が30であれば、「29×300」の書き込みが過去になされ、現在なお進行中であることを意味する。

● 中央線沿線駅周辺
日野駅 18... 現行スレッドは2003年2月に開始されているが、その前身スレッドは2000年11月に開始されている。当初は日野市全般の話題を対象としていたが、政治的な書き込みが多くなったために廃止された。現行のものは日野駅周辺の話題を対象としている。
豊田駅周辺 23... 2001年10月開始
● 京王線沿線駅周辺
百草園 16 2002年9月開始。前進となるスレッドは2001年6月に開始。
高幡不動 51 2001年1月開始
南平 26 2001年5月開始
平山城址公園 14 2002年4月開始
● 多摩モノレール沿線駅周辺
万願寺・甲州街道駅・石田大橋周辺・泉 15 2002年10月開始
● その他
昔の日野を語ろうよ! NEW【Part 5】... 現行のものは2004年1月に開始されているが、その前身スレッドは2001年8月に開始されている。書き込みが減ったために消滅したが再設置された。
百草台・高幡台・三沢台 5 ... 2004年3月開始
高幡・百草・三沢・程久保の昔を語ろう... 2006年3月開始

表6 mixiにおけるトピックの内容分類

- 01 全体情報 (自己紹介・相談全般・お勧め全般・開/閉店など)
- 02 雑談 (全般・メディア情報など)
- 03 衣 (和洋・新古・靴・仕立て直し)
- 04 食 (全般・酒・和洋中・カフェ・スイーツなど)
- 05 住
- 06 医療 (医・歯・薬・動物)
- 07 健康・リラクゼーション (スポーツ・銭湯・マッサージ・エステなど)
- 08 美容・理容
- 09 育児・習い事
- 10 その他の生活情報 (書籍・CD/ビデオ・コインランドリーなど)
- 11 ゲーム・遊び場・デート
- 12 探しもの・人探し
- 13 売買・リサイクル
- 14 募集・応募 (飲む・遊ぶ・演る・働く)
- 15 イベント

以上